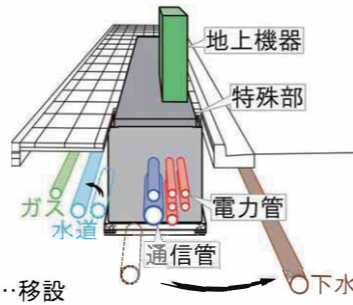


### 最新情報 低コスト手法の取り組みについて

従来の電線共同溝方式は整備費用が高く、無電柱化が進まない原因のひとつになっています。

「埋設深さの基準」や「電力線と通信線の離隔距離に関する基準」の緩和により“低コスト手法”が適用または検討され始めています。以下に3つの低コスト手法（“低コスト3兄弟”）を紹介します。

従来の電線共同溝方式

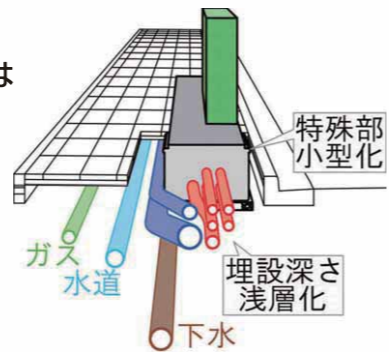


#### ① 浅層埋設方式

管路を従来よりも浅い位置に埋設する方式。管路材によっては浅く出来ない場合があります。

##### 主な効果

- 掘削土量の削減
- 特殊部の小型化
- 支障移設の減少

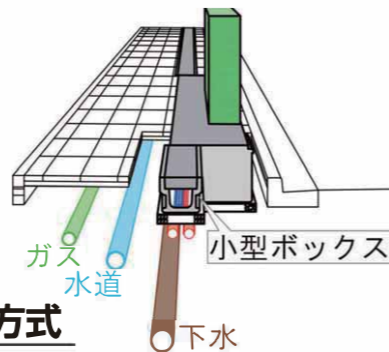


#### ② 小型ボックス活用方式

ボックス内に電力線（低圧）と通信線を同時に収容してコンパクト化する方式。

##### 主な効果

- 掘削土量・仮設材の削減
- 特殊部の小型化
- メンテナンス性の向上

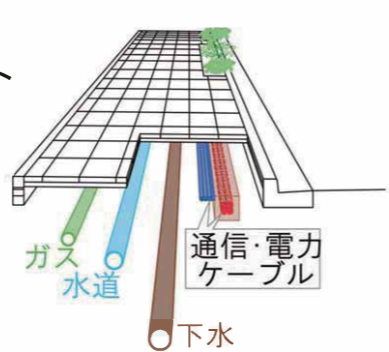


#### ③ 直接埋設方式

電力線や通信線を直接埋設する方式。他の手法よりも低コストですが、防護対策等の課題を有しています。

##### 主な効果

- 掘削土量・特殊部の削減
- 支障移設の減少
- 工事工程の短縮



## — 無電柱化事業への取り組み —

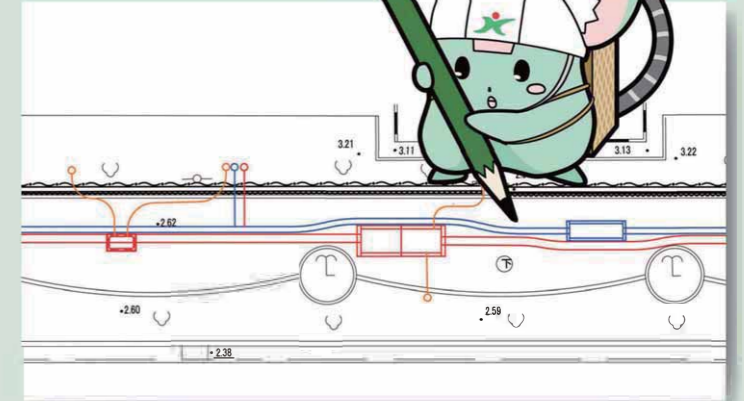
# 電線類地中化技術の紹介



当社オリジナルキャラクター ム電子ユ-君



小型ボックスの試験施工（見附市）



お問い合わせ先

無電柱化に関する情報は [こちらから](#)

近代 無電柱化

検索

株式会社 近代設計 無電柱化担当

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1丁目9番16号 丸石第二ビル

TEL: 03 (3255) 6495 FAX: 03 (3251) 9509

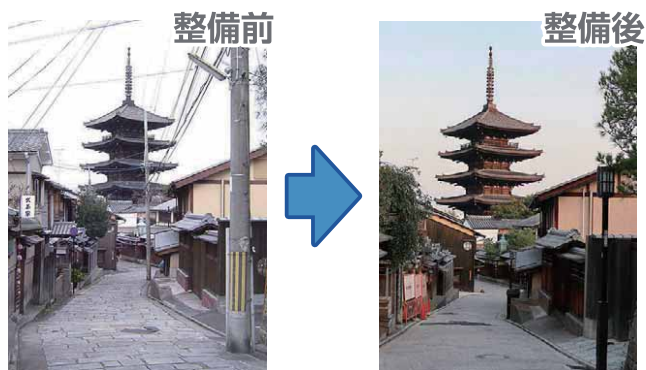
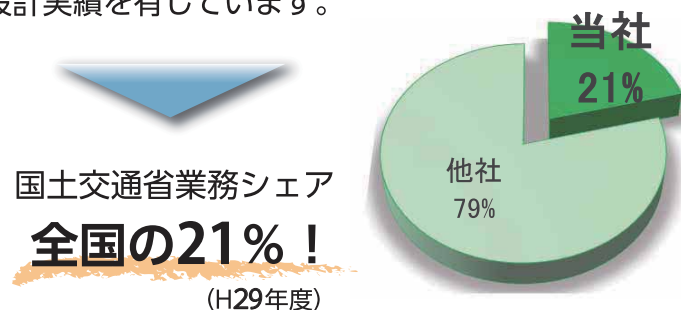


株式会社 近代設計

# 1. 電線類地中化における当社の実績

無電柱化の手法は、「地中化による無電柱化」と「地中化以外による無電柱化」に大別されますが、現状では電線共同溝方式による地中化整備が主流になっています。

当社は、平成7年の電線共同溝誕生時より多くの設計実績を有しています。



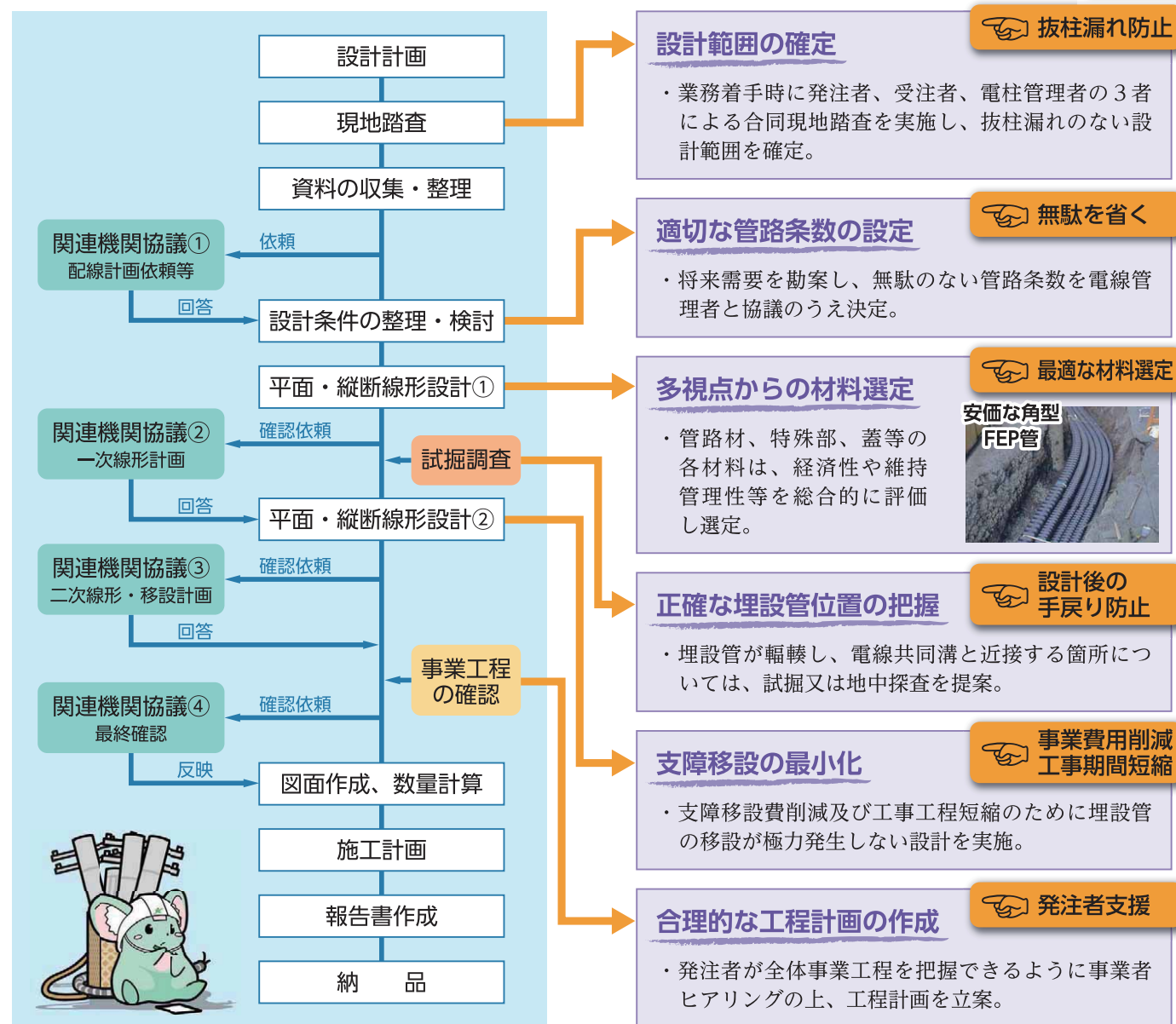
(当社実績：京都市八坂通り)

# 2. 品質向上に向けた取り組み

当社では、設計成果の品質向上に向けて、以下のような取り組みを実践しています。

## 電線共同溝設計の流れ

## 具体的な取り組み



# 3. 関係者（企業者、沿道住民等）協議における取り組み

施工中の手戻りを防ぐため、設計時の関係者協議を確実に円滑に進めます。

## CIMを活用したわかりやすい資料作成

⇒電線共同溝と埋設管の位置関係を明確に示すことで、埋設企業者との協議を円滑に進めます。

## 入溝企業者との個別協議の実施

⇒「関連機関協議」とは別に、入溝企業者と個別協議を積極的に実施して問題点を事前に解消し、設計条件を確定します。

## 整備後のイメージの提供

⇒計画箇所への地上機器の実物大模型の設置やCGを用いたイメージ図作成により、整備後のイメージを沿道関係者と共有します。



# 4. 整備困難箇所における電線共同溝の設計事例

今後の無電柱化は、歩道が無い道路など厳しい条件下での整備がメインになります。ここでは当社の受注実績の中から、整備困難箇所における設計事例の一部を紹介します。

## 事例その1 (場所：東京都江戸川区瑞江西)

### 現場状況

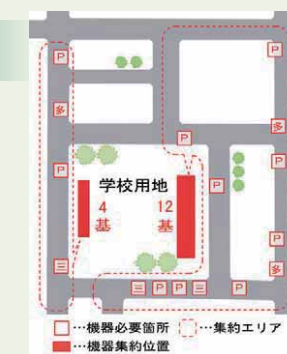
- ・土地区画整理事業内の区画道路（住宅街）
- ・道路幅員6m(歩道なし)、9m(歩道幅員1.5m)

### 問題点・課題

- ①狭隘道路における地上機器の設置位置
- ②公共施設への地上機器設置による利用者への影響
- ③地上機器設置に係る用地管理者との協議の円滑化

### 解決策

- ①地上機器を公共用地（学校・公園）へ集約配置 (写真①②)
- ②公共施設の利用状況に配慮した地上機器位置の設定
- ③整備イメージ図 (写真③) を提供し、用地管理者と情報共有



写真①



写真②



写真③

## 事例その2 (場所：京都市産寧坂)

### 現場状況

- ・京都を代表する観光地（伝統的建造物群保存地区）、沿道は店舗中心
- ・道路幅員3.4m(歩道なし)、道路最急勾配10%

### 問題点・課題

- ①歩道のない狭隘道路における地上機器の設置位置
- ②狭隘道路における特殊部の施工方法
- ③観光地における適切な施工時間の設定

### 解決策

- ①地上機器を支道部へ集中配置 (写真④)。一部は合意形成により民地へ設置 (写真⑤)
- ②小型の建設機械を選定して、特殊部を分割施工
- ③観光に支障がないよう、沿道店舗と調整して施工時間を決定



写真④



写真⑤